

トイレゴミを持ち帰ろう

ここ十年の間に山のトイレには、快適な設備が導入され始めました。このこともあって、より多くの人々が山へ出かけるようになってきました。

しかし、人気の山に登山者が集中し過ぎて、自然の収容力を超えた「オーバーユース」状態を招いているのが現実です。



山のトイレは、在来の「ぼとん式」から、バイオなどハイテク技術を導入したエコ・トイレへと格段の進化をしてきました。一方、こうした進化に登山者の意識が追いついていないところがあります。山のトイレの問題には設備の整備以上に、トイレマナーについて登山者がもっと学ぶことが求められているのではないのでしょうか。

山では若い登山者を多く見かけるようになりました。また、「山ガール」など流行って、山の魅力に惹かれる人が増えています。山登りが楽しいものであり続けるよう、みんなで協力し合おうではありませんか。

山の基本は Take-in, take-out と言われます。即ち、「持ち込む物を必要最小限にして、持ち込んだものを必ず（極力）持ち帰る。」ということです。言い換えれば、山にはゴミを残さず、ゴミは持ち帰るということです。丹沢でもゴミの持ち帰り運動が永年行われてきて、登山者のモラル向上もあって、「ポイ捨てゴミ」が登山道付近からめっきりと減ったように思われます。

丹沢山塊では丹沢山をはじめ、塔ノ岳、檜洞丸、鍋割山のそれぞれ山頂付近などをはじめ、8カ所にエコ・トイレが設置されております。これらは、太陽光や天水等の自然エネルギーを利用し、糞便（有機物）をバクテリアの分解力で処理する方式となっています。そのため、処理能力の妨げとならぬよう、使用済みペーパーの持ち帰りが呼び掛けられています。

山のゴミには

ゴミの区分	説明	内容
トイレゴミ	排泄等で使用済みとなったもの	ペーパー、ナプキンなど
ポイ捨てゴミ	登山途中で捨てられたゴミ	ボトル・缶、弁当ガラなど
負の遺産	昔のブームで埋められたゴミ	瓶・缶、生活用具など
投棄ゴミ	林道など不法投棄のゴミ	古タイヤ、家電品、建材など



神奈川岳連ではこれまで、大倉尾根や二ノ塔の「負の遺産」の撤去にも取り組んできました。

置き去りにしないで トイレゴミの 持ち帰りにご協力を

この環境登山は、「丹沢の緑を育む集い」実行委員会からの支援を受け、神奈川県山岳連盟の環境活動の一環として行っています。



神奈川県山岳連盟 自然保護委員会

山のトイレエチケット袋を
配布しています。

ティッシュなど使用済みペーパーの持ち帰りに利用ください。

上手に利用、快適にトイレ

ポケット・ティッシュや生理用品、オムツ（不織布）ビニールなど化学原料でできたものは自然界ではバクテリアで分解もされず残ってしまいます。また、パイプの詰まりなど、異物がトイレの働きを阻害する原因となっています。

在来からあるトイレでも、ペーパー類のみならずいろいろな異物の投棄があり、トイレ掃除や汲み取りに大変な支障となっています。

山のトイレマナー

◆**登山口でトイレを**：登山を開始する前にはまず登山口でトイレを済ませておく。

◆**チップは必ず払おう**：山のトイレではチップは必ず払おう。チップはトイレを清潔に維持管理などに充てられます。

◆**トイレ設備のルールに従おう**：みんなが快適にトイレを使うため、利用方法など決められたルールを守ろう

◆**ペーパーの持ち帰りに進んで協力**：使用済みのペーパーは持ち帰りましょう。便壺に異物（下着、生理用品、紙オムツなど）を絶対に捨てない。）



ポケット・ティッシュについて

難水溶性の性質を持たせるために、湿潤紙力増強剤と呼ばれる薬品を加えて加工し、この薬品が紙繊維同士を強固に接着することで薄くても一定の強さを持ち、また柔軟なものに仕上げられています。このため、水洗トイレの排水パイプが詰ったり、いつまでも分解せず残ってしまいます。

携帯トイレについて

最近では、知床、利尻岳、早池峰山など多くの山では、携帯トイレが利用されるようになりました。回収システムの整備や登山者への負担など、みんなで考えるべき課題があると言われています。

山のトイレマナー袋について

北海道の「山のトイレを考える会」が中心となって、山でトイレをしたときの使用済みペーパーを持ち帰るため、ペーパーを持ち帰る袋を多く登山者へ配布する運動を進めています。

山で使った「トイレット・ペーパー」・「ティッシュ・ペーパー」・「ペーパー・タオル」などをこの袋に入れて自宅まで持ち帰り、ゴミ処分するために使います。登山者の一寸の協力で、山の自然環境への負担を軽くしようというものです。

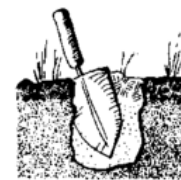
神奈川県山岳連盟では、「山のトイレを考える会」の協力を得て、「山のトイレマナー袋」を配布しています。

Leave no Trace 精神に学ぶ

山での緊急時のトイレは一体どうすればいいのでしょうか。持ち帰らず残したものは、その場所で廃棄物になってしまいます。Leave no Trace という米国の野外教育 NPO 団体（www.lnt.org）では野外活動で排泄物へ対処に次のような対処を勧めていますので要点を紹介します。

一般的に知られている考え方に反して、糞便を土に埋めるとゆっくりと分解する研究報告もあります。土に埋められると、病原体は1年間以上も生き残ることが分かっています。しかし、他の問題をも考えると、糞便を土に埋めるが一般的に最良とされます。分解に時間がかかるので、正しい場所（水、キャンプ場と他の頻繁に使われる場所から遠い）を選ぶ必要があります。この土に埋めるために掘る穴のことをキャットホールと言います。

キャットホールは、糞便処理で最も広く認められた方法です。水、コースとキャンプから少なくとも60メートル（大人の歩幅でおおよそ70歩）離れた場所にしてください。径路やキャンプサイトを外し、目立たない場所に決めてください。小さな移植ごてで、深さ15～20センチ、直径10～15センチの穴を掘ってください。最後に、穴を土で塞ぎ、落ち葉などの自然物で覆って跡を隠しましょう。同じ場所に何泊もキャンプするとか、キャンプのメンバーが多い場合など、キャットホールの場所を広く分散する必要があります。



尿は、植物または土への直接の影響はほとんどありません。また、尿が人間の健康をほとんど脅かさないことがわかっています。しかし、おしっこにおいてはその場にかぐわしい香りを発生させ、動物たちは尿から生まれる塩分を採ろうと、地面を足先でかきまわし、植物の葉をむしりとりまわす。そのために、できるだけキャンプ場所から遠ざかって、岩場あるいは砂地で排尿するべきです。

